

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970200255		
法人名	有限会社かもん		
事業所名	グループホーム いまざと元気村		
所在地	奈良県大和高田市中今里町4-3		
自己評価作成日	令和元年5月27日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiqvosvcCd=2970200255-00&ServiceCd=320&Type=
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル		
訪問調査日	令和1年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一般的な民家型のため施設型とは違い、入居者様が我が家と思ってゆったりと過ごしていただける空間になっています。また、自家農園で栽培した野菜をふんだんに使用して、毎日の食卓を季節感ある豊かなものにしていきます。そして、開設時から全員参加の散歩を日課とし、地域の方とも顔なじみとなっています。当社グループの他ホームとの合同で一泊旅行、運動会、クリスマス会等の大きなイベントに参加いただき、刺激のかつ充実した日々を過ごしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市の東部に位置し、最寄りの駅から徒歩10分ほどの住宅地の中にあり、2階建ての民家を改築したホームであり地域に溶け込んでいる。周囲には田んぼや畑が残り、理念の一つである「ごく普通の家庭生活」をゆったりと送れる自然豊かな環境にある。又、「地域福祉向上」の役割を果たせるよう、地域活動や地域住民との交流に前向きに取り組み、近くの保育園児達との交流は利用者の楽しみにもなっている。食事には特に力を入れており、3度の食事はすべて職員の手作りで、自家農園で栽培した新鮮な野菜をとり入れた食事を提供している。勤続年数の長い職員が多く、利用者の意向を推し量って一人ひとりが笑顔で過ごせるよう職員は日々支援に努めている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のスタッフ全員参加の研修会で、理念に基づいたサービスの提供についての話し合いを行い、実践につなげている。	理念を玄関先と事務室に掲示し、毎月の研修会(会議)でも確認している。今年度は、利用者の笑顔のある毎日の暮らしに重点を置いた目標を掲げ、職員は日々の取組みを振り返り、理念に基づいたケアの実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩の中で地域の方々と挨拶を交わしたり、クリーンキャンペーン等自治会の行事にも積極的に参加している。	自治会に加入し、回覧板を利用者と届けたり、クリーンキャンペーンなど地域の行事に利用者に参加している。又近くの保育園の行事に参加、地域からハイキングのお誘いを受けるなど地域の一員としての相互交流がなされており地域の中に溶け込んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する理解を深めるため、ホーム便りの発行、グループホームの理解に繋げるための運営推進会議の充実と地域交流に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、入居者様の状態や今抱えている課題などを報告して、地域、行政などからご意見を頂いて、サービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は、市担当職員・地域包括支援センター職員・民生委員の参加を得て、2ヶ月に1回定期的に開催している。会議では活動報告を中心に参加者から質問や意見を受けるなど双方向的な話し合いが行われている。	地域密着型サービスの事業所であることを認識し、地域の意見や要望を汲み上げるためにも、自治会長や老人会役員はじめ地域の代表者を運営推進会議へ参加を要請する取組みと、認知症ケアや身体拘束や認知症の理解を地域へ発信する場となる取組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や地域包括支援センターへ出向いたり、電話で連絡や報告を行い、良好な協力関係を築くよう努めている。	運営推進会議には、毎回市担当職員・地域包括支援センター職員が出席し、スムーズな情報交換と共有が出来ている。生活保護者の受入れもしており、担当課とは日頃から連携をとり、何でも相談できる関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念に掲げ、研修の場においても職員に理解を深めてもらえるよう日々取り組んでいる。玄関の施錠については、外部からの不審者を防ぐために行っており、ご家族にも説明している。	身体的拘束適正化検討委員会を2ヶ月に1回開催している。指針を作成し職員研修もしている。職員は、身体拘束の内容やその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。門扉の施錠はしているが玄関は施錠していない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に研修で取り上げたり、行政からの情報を提供し、虐待に対する理解を深めてもらい、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月行っている研修会の中で、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けて知識を深め、必要時に活用できるよう取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明後に、疑問や質問については納得を得られるように心掛けている。またその都度、管理者が対応できる体制をとっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、また家族会において意見を聞いて、頂いた意見を参考に運営に活かしている。	家族の意見や要望は面会時や利用者の体調変化などで家族に電話連絡する際に聴くよう努めている。家族会があり参加家族には面談して意見要望を聴くようにしている。家族からの意見で、利用者の些細な変化でも見逃さず、気づけば直ぐに家族に連絡する体制に整えた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月研修会を行い、必ずスタッフ全員が意見や要望を発言する機会を設けて、提案する内容が反映されるように努めている。	職員は、代表者も参加する月1回の研修会で運営に関して意見・要望を述べる事ができる。代表者、管理者は日々業務の中で職員が意見を言い易い環境づくりに努めている。職員の意見で風呂に手摺の設置や空気清浄機の導入など、職員の意見を大切にサービスの向上とともに、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課があり、自己評価と他者評価を行い面談を実施している。また、キャリアパスの導入で各自向上心を持ってよう日々職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と判断した研修に参加を勧めている。研修内容を事業所の研修時に発表してもらい情報の共有を図っている。また、新人スタッフには一定期間担当指導者について介護力アップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等への参加により、交流する機会を設けており、ネットワークづくりやサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が不安に思われぬよう、ペースを合わせて傾聴するように心掛けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人に最適なサービスが提供できるよう、ご家族の想いや要望を時間をかけてお聞きしている。また、初期はお互いの理解を深められるように、まめに連絡を取り合うようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望をお聞きし、職員、主治医との話し合いを行って、必要とされているサービスに繋げている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の散歩や外出、家事などの作業は日常的に一緒に行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人に対する家族の想いをお聞きし、それに添えるように支援を行っている。各種イベントなどには参加を要請して一緒に楽しんでいただく。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会があれば、ご家族の了解を得たうえで、居室などで気兼ねなく話ができるよう支援している。	利用開始時に本人と家族から聞き取った情報と日々の会話のなかで、一人ひとりの生活習慣の把握に努めている。親しい知人に会いに行かれる利用者もあり、馴染みの人や場所との繋がりが継続できるよう利用者の希望に添った支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団らんなどの機会を通じて、お互いに懐かしい話ができるよう、きっかけ作りの支援を行ったり、共同作業(簡単な家事作業)でお互いが労い、助け合える関係が築けるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談にも随時対応し、情報交換や助言を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で本人のニーズを引き出し、ご家族からも情報を提供して頂き、その人らしい生活が送れるように支援している。	利用者ごとに担当職員が決め、利用者の日々の会話や行動・表情を観察し、利用開始前に本人や家族から聞き取った情報も加味して本人本位の思いや意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、保護者や入居前に関わられていたケアマネージャーに、ご本人の生活歴などの情報を提供してもらっている。また、日常の暮らしの中で、何気ない会話や行動からも情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務交代時にきちんと申し送りをすると同時に、申し送りノートを活用し、スタッフ全員が共通認識として把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の研修で本人の課題を話し合い、ケアマネージャーを中心にモニタリングを行い、家族の意向も聞いて介護計画に反映している。	利用者の担当職員を中心に毎月の研修会でケアカンファレンスを行い、日々の生活の中での利用者の思いや意向をもとに利用者の楽しめることを中心にした介護計画を作成している。6ヶ月ごとに事業所独自の生活リズム表により介護計画の見直しをしている。利用者に状態の変化があればその都度見直しをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を分かりやすく個別に記録し、毎月のケアカンファレンスで情報を共有して介護計画に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況に合わせて受診介助や個別ケアなどの介助を行い、緊急入院時は手続きや洗濯物などの物品準備等の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の持っているネットワークを活かし、ご本人に応じた支援を行えるよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診時、また、往診時に本人の変化等について相談をしている。そして、日々看護師による訪問を行って、変化があればその都度ご家族に連絡している。	利用者のほとんどが事業所の協力医を主治医にしており、月2回の訪問診療と随時の往診を受けることができる。利用開始前からのかかりつけ医がある方が1名おられ家族付き添いで受診している。また月1回協力歯科医の訪問診療もある。週3回看護師職員により健康管理を行っている。眼科等の専門医院へは職員が通院介助をしており、医療面の不安は少ない。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置しており、医療への対応もできる体制作りをしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室と情報交換している。病院訪問時も医師や看護師と情報交換するようにして良好な関係を構築している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向をまず聞いている。次にご本人の体調の変化に合わせてかかりつけ医、看護師を交えたカンファレンスを行っている。	利用開始時に看取り介護の指針を本人や家族に説明している。これまでに看取りの事例はないが、協力医・看護師とは24時間の協力体制があり看取りに対する準備は出来ている。	利用者の重度化に伴い、施設での看取り介護が求められる傾向にある。法人グループ内での看取り事例があり、看取りケアについて医師・看護師・家族との連携、職員の精神面のケアについて研修の実施を期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修会で応急手当や急変時の対応について話し合い、職員全員が対応できるよう勉強会を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行うと同時に避難方法等について話し合い、誰もが対応できるよう周知徹底している。	利用者も参加する避難訓練を年に2回行い、12月には夜間想定での避難訓練を行っている。防災マニュアルがあり、緊急時のホットラインの整備も出来ており、スプリンクラーは設置済みである。10日分の飲料水や食料の備蓄もある。地域住民の協力要請の話し合いが望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と考え、お世話させて頂いているという思いを意識しながら対応している。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した接遇を心がけ、名前を「さん」付けて呼ぶことを基本に馴れ合いにならない様に努めている。排泄支援もあからさまな介助にならない様にプライバシーに配慮して、無理強いをしない自然な誘導を心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症状のレベルに合わせて、思いを表現できる場面を作り、自己決定できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて、その日、その場面で臨機応変に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご自分で選んでいただくよう声かけをしている。髭剃りやヘアースタイル、お化粧品などはその人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家農園で採れた野菜の整理や食事の準備、片付けは一緒に行っている。また、職員も一緒に食卓を囲んで食事を楽しむようにしている。	3度の食事は、下ごしらえを利用者にも手伝ってもらい職員が交代で手づくりしている。事前にメニューを決めてはいるが、食材によりメニューには拘らず色々アレンジした食事を提供しており、利用者に好評で食欲も旺盛である。職員も利用者と同じものを一緒に食べ食卓を囲み話をしながら食事を楽しんでいる。月に1回はファミリーレストランなどで外食もしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度きちんと把握し、その方の状態に応じた摂取量になるよう支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、支援を行っている。入居者の皆さまも歯磨きが習慣となっている。また、希望者には訪問歯科による口腔ケアも毎月行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導することにより排泄の失敗を少なくして、自立できるよう支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄記録で、排泄パターンの把握に努め、無理なく自然な排泄ができるよう適宜なトイレ誘導と水分補給などに心掛け、おむつの使用をしない支援に取り組んでいる。昼夜を通しておむつ着用の方はいない。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握、散歩や体操、水分補給などの工夫をしている。便秘がちな方には医師、看護師に相談するが、できるだけ薬に頼らない排泄になるよう支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、一人ひとりの入浴時間は、ゆっくりと楽しんでいただけるように配慮している。	週3回入浴は、火曜日は全員でデイサービスの浴場に行き温泉気分を味わい、金曜日と日曜日は事業所で午後から職員とゆっくり会話をしながら入浴を楽しんでいる。菖蒲湯やゆずを浮かべて季節を楽しみ、入浴のない日は足浴をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自居室にて常に安心して休息していただけるよう、静かな環境作りに配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	研修会で薬に関する勉強会を行って知識を深めている。服薬時は、お互いに日付け、名前を確認し、確実に服用できているかダブルチェックで確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味趣向や生活歴などの背景を考慮しながら、本人が役割を持つことで生き生きと生活ができるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	個々の身体状況や気候に合わせて近所を散歩や外出をしている。一人ひとりに合わせた距離で、杖や車いすなどを使用し、安全に考慮しながら支援を行っている。	毎朝全員で9時から30分程度散歩している。散歩コースが3コースあり、利用者の体調や季節に合わせて散歩コースを変更するなど楽しく散歩が出来る支援をしている。毎年恒例の体育館を借りて運動会や職員も参加の1泊旅行もあり、利用者の楽しみになっており充実した外出支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さは理解されているが、認知が難しいため管理は保護者が行っている。買い物に出かけた時は、それぞれ自分の財布からお金を払っていただけるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望があった場合、電話の操作を支援したり、話が上手く伝わらない場合は職員が間に入ったりして、ご家族や知人との繋がりを大切にしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーや作品、写真、季節の掲示物、花を生けるなどで季節を感じていただき、居心地の良い空間作りに努めている。	窓が三方ある居間は明るく、家庭的な暖かみを感じられ、白を基調とした壁には利用者の笑顔の写真や手作りカレンダーが貼られ、自らの居場所であることが感じさせる工夫がなされている。共用空間のトイレ清掃及び消毒は1日2回行い衛生管理が行き届いている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニング等で自由に好きな場所で、心地よく過ごせるよう場の調整に努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具を持参して頂いている。また、思い出の写真なども居室に置いてもらい、落ち着く空間作りに工夫している。	居室にはエアコン・ベッド・カーテンが備え付けられているが、好きな色のカーテン(消防法の防災ラベル付きカーテン)の持ち込みもできる。使い慣れたタンスや鏡台を持ち込み、家族の写真を飾るなど自分らしく居心地よく過ごせる生活空間となっている。職員が1日1回居室の消毒を行なっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることには見守り、自己能力をできる限り活かしていただけるよう支援している。		